

光中だより

宝塚市立光ガ丘中学校
校長 古川資治

平素は本校教育の推進にご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。2学期はスポーツの秋、芸術の秋などさまざまなスポーツの大会や文化行事が催されています。本校でも、9月19日(土)に体育大会、10月23日(金)総合文化発表会と2つの大きな行事がありました。それぞれの行事の取り組みの様子について紹介したいと思います。

自分を成長させてくれる ライバル

体育大会では、赤・青・黄・緑の4つのブロックに別れて得点を競います。1年生、2年生・3年生のそれぞれのクラスが縦割りのグループで1つのブロックとなります。ブロック対抗種目として「大玉流し」「マスト登り（男子）」「棒引き（女子）」「騎馬戦」「ブロック対抗リレー」「アスレチックリレー」「玉入れ」があります。そして、全学年男子生徒による「マスゲーム」、全学年女子生徒による「ソーラン節（組み体操）」が体育大会のクライマックスとなっています。

生徒達は、自分たちのブロックの優勝を目指し、特に練習によって大きな差が出る「みんなで5人6脚（1年）」「むかで競争（2年）」「長縄（3年）」をクラスごとに早朝練習までして取り組んでいます。練習を通じて協力することの大切さを身を持って体験しています。



ソーラン&組み体操

生徒達は優勝を目指してがんばる余り、時には勝ち負けにこだわりすぎ体育大会の本来の目的を忘れてしまいますがことがあります。開会式でも、学校通信でもそのことを伝えてきました。以下に学校通信の一部を紹介します。

体育大会を通じて、ライバルについて考えていました。競技の目標には勝つことがあります、そのためにはライバルは欠くことのできない存在です。そもそも、戦う相手がないければ、勝負そのものが成り立ちません。戦った結果、勝負に負けたら悔しく、今までやつてきた努力が実らなかつたことに無念な思いをするでしょう。そんな思いを時に誤つてライバルに向けてしまうことがあります。「相手がこんなずることをしたから勝つんだ。」など、自分が負けた言い訳を探し、その責任を相手に見いだそうとしてしまいます。これは、うまくいかなかつた事柄に理由をつけることで、自分の中の悔しさを納得させようとするものです。でも、競技の目標は勝つことであつても、目的は勝つことではありません。そこで競技を通じて、どこまで自分を伸ばすことができたか。苦しくても努力し続けたことによって自分の生き力を磨き、ここをたくましくし、身体の自主性を培う絶好の機会とし

て、またリーダーシップを育てる機会として大切にしています。またその指導を受けた後輩達が自主的な姿勢を受け継ぎ、次の世代へとつなげていきます。これは本校の素晴らしい伝統となっています。また、男子の「ソーラン節（組み体操）」でも、3年生を中心としたさまざまな行事が催されています。本校でも、9月19日(土)に体育大会、10月23日(金)総合文化発表会と2つの大きな行事がありました。それぞれの行事の取り組みの様子について紹介したいと思います。

に取り入れる演技等を先生と一緒に考え創り上げていきます。ピラミッドなど安全性がマスクに取り上げられ注目を集めていますが、生徒の安全面と創り上げる達成感のバランスながら、音楽に合わせた組み体操とソーランを演じました。

◇僕は招集・引率という係にあつたつて。しつかりと体育大会の進行をできたと思う。今回初めてそういう係にあつたが、とても大切なことなんだと気づいた。今までの体育大会はそういう人たちがあつたつて思つた。ソーラン節はいつも以上にすごい技が多く、特に人間起こしが難しかつた。自分たちでやつているとあのウェーブがよくわからなかつたが、家でビデオで見るととてもきれいなのがわかつたし、僕たちもあんなのができるんだと感激した。男子は今年ケガ人0人で終わられたのが何よりだ。今年の体育大会は言葉では言い表せない無形の力がたくさんあつた。みんなで頑張ると非常に大きな力が發揮できることを改めて知つた。

◇今回はブロック全体のダンスリーダーとしてブロックを引っ張つてきました。なれたはいいけどなかなか教えたものが伝わらなかつたり、できなかつたりして、怒つたりきつくな言つてしまつたこともあつたけど、1・2年生は最後まで文句を言わずについてくれて本当にうれしかつたです。本番はとつても良かつたし、声も笑顔も溢れていました。それに最後、ダンスリーダーを囲んで

を鍛えることになります。そう考えると、ライバルの存在は自分を成長させてくれる大切な存在であることがあります。だから、ライバルに対する「大切なのは勝ち負けじゃない、いかにみんなが協力できたか」ということです」という言葉が心に響きました。

生徒の感想も紹介します



にしまう、という意味も兼ねた「負け」はとても気持ちのよいものとなりました。

協力して創り上げる喜び

総合文化発表会では、午前中に合唱コンクールと学年合唱、午後からは生徒会のP.V.、吹奏楽の演奏、選抜隊によるソーランやダンス、英語祭スピーチなどがステージであります。そして展示部門では、各学年や教科、部活動の展示物など、総合文化発表会にふさわしい多彩な内容の発表でした。

クラスごとに競う合唱コンクールでは、音楽の時間の取り組みに加え、早朝練習などを重ねながらクラスで自分たちの歌を創り上げて表現し、聴く者に伝えるか指揮者やパートリーダーを中心に考え磨き上げられた音楽は、聴く者に深い感動を与えてくれました。3年生の最初のクラスが歌い終わると、初めて合唱コンクールを体験する1年生からはどよめきが起つていきました。学年が上がるにつれて迫力を増す歌声と表現力に圧倒されたようです。

クラスの合唱を創り上げる過程では、リーダーシップを發揮してがんばる生徒、なかなかやる気を見せない生徒、意見の食い違いなど様々なぶつかり合いや葛藤があり、つらい思いをしたり、悩んだりすることもあります。仲間とコミュニケーションをとりながら、1つの目標に向かって苦労して創り上げることで、達成感や成就感などが上ない喜びと、苦労とともにしました。

午後からの生徒会のP.V.は生徒会執行部の生徒が中心となつて作成しました。クラスごとの出し物や仲間との強い連帯感が生まれます。午後からの生徒会のP.V.は生徒会執行部の生徒が中心となつて作成しました。クラスごとの出し物や先生と生徒の50メートル走対決、先生同士のルーピックキューブ対決、バッココイイ動画などプロ顔負けの編集で楽しませてくれました。いろいろな特技や能力を持った生徒がいることに驚かされました。